

【九和】鍋地・桂^{かつら}

⑪⑧ お釈迦さん



鍋地と桂にまたがる山(標高339m)は、釈迦山・蓬萊山・法華山など、仏教にまつわる様々な呼び名がついている。この山頂少し下にある釈迦堂には、国重要文化財の木造釈迦如来立像(宝蔵寺管理)があり、4月8日の花まつりにはご開帳してお祝いしている。

釈迦堂は、寺伝によると推古朝の時代に地元の有力豪族・越智益躬が創建したという。本尊の釈迦如来像は像高163cmで材質は梅檀の木でできている。昭和14年に解体修理を行った際、胎内から文永5年(1268)の墨書銘が見つかり、大江氏が先祖供養のため発願し、仏師・薩摩法橋興慶に本像を造らせたことが分かった。京都嵯峨の清涼寺式の像という。

これを納める厨子も材質は梅檀の木で、棟札から正徳5年(1715)に造られたことが分かる。厨子と棟札、および元禄15年(1702)に建立された現在の釈迦堂本堂は、いずれも市指定文化財である。本堂は当初瓦葺きだったが、天保14年(1843)に茅葺きとなり、昭和34年に銅板葺きに改修されて現在に至る。

平安朝頃は、7寺院12坊を従え壮大に栄えていたようだ。しかし、平将門の乱をきっかけに衰退していった。今治藩主松平定陳公の再建もあって、江戸時代中期頃から盛んになった。

⑪⑨ 釈迦堂の森

釈迦堂の森は、少なくとも300年以上(元禄15年の釈迦堂再建以降)は木々が伐られていないと推測される。境内を見ただけでも多くの大木、老木が残っていて貴重な存在である。

ボダイジュは目通り約150cm。イロハカエデの老木は見たこともないほど太く、いびつな形をしている。巨大なイチヨウは仲良く2本並んでいる。ムクノキ・クスノキ・エノキ・ヒノキ、桂木神社の横には大きなナギノキがある。その他ウラジロガシ・コガノキ・バリバリノキ・イヌガシ・カクレミノ・シデサクラ・ヤブツバキ・アラガシ・カツラなど、どの木も大きく風格がある。玉川では檜原山について巨木・古木の宝庫である。主な木々には、名前の札が下げられている。



イロハカエデの巨木



ボダイジュは昭和38年玉川町天然記念物に指定



桂木神社横のナギノキ



双子のイチヨウ